

## 桜島・錦江湾ジオパーク現地審査報告書

阿部 宗広(JGC), 松原典孝(JGN), 畑中健徳(審査補助員)

期間：平成 24 年 9 月 4～5 日

### 主な参加者（所属）

森 博幸（鹿児島市長），山口順一（鹿児島市観光交流部長），玉利 淳（鹿児島市観光交流部観光企画課長），石宮 聡（鹿児島市観光交流部観光企画課係長），大嶺繁徳（鹿児島市観光交流部観光企画課主事），出森浩一郎（鹿児島市観光交流部観光企画課），西原直樹（鹿児島市公園緑地課主幹），篠原増根（鹿児島市公園緑地課主査），荻野洸太郎（かごしま水族館館長），菅井 寛（県立石橋記念公園館長），県立石橋記念公園こども学芸員 3 名，水流芳則（鹿児島県立博物館館長），寺田仁志（鹿児島県立博物館学芸主事），山崎隆洋（黒神中学校教諭），黒神中学校 生徒さん（ジオガイド）6 名，福島大輔（NPO 法人桜島ミュージアム理事長），野口 誠（NPO 法人桜島ミュージアム事務局員），大村 瑛（NPO 法人桜島ミュージアム事務局員），青木 愛（NPO 法人桜島ミュージアム事務局員），平峯浩人（NPO 法人桜島ミュージアム事務局員），西野 剛（ボランティアガイド），有川貞夫（ボランティアガイド），小城勝美（ボランティアガイド），奥之園輝己（ボランティアガイド），東川隆太郎（かごしま探検の会代表理事），東川美和（かごしま探検の会），飯島 修（国民宿舎レインボー桜島支配人），宮武健仁（フォトグラファー），大木公彦（鹿児島大学名誉教授），横道ひろみ（桜岳陶芸店主），篠原清子（桜岳陶芸店員），中島孝子（旬さくらじま旬彩館代表），池田昭郎（旅の里（お土産屋）店主），酒匂一秀（溶岩加工センター），上原祐治（クイーンズしろやま），川崎恭資（潮音館オーナー）

### 見学地点

ピジターセンター～溶岩なぎさ遊歩道～足湯，桜岳陶芸，黒神埋没鳥居周辺案内，桜島口～有村溶岩展望所，有村海岸，錦江湾クルージング，鹿児島県立博物館，いおワールドかごしま水族館，城山，原五社神社～寺山ほか

### 現地審査のまとめ

#### 1) ジオサイトと保全

桜島をシンボルとした自然科学的，社会科学的サイトが多数あり，それらは桜島に密接に関連している。メインテーマ「火山と人と自然のつながり～海まで広がる活火山の営みと都市の共存～」の通り，鹿児島市街地を含めた桜島周辺は桜島における火山活動の中にあり，地域住民は桜島を強く意識して生活している。現在まで，長きにわたる火山との共生により育まれた個性的な文化や歴史，生活は，自然科学的なサイトとともにジオサイトに設定されている。ガイド付きツアーで複数のジオサイトを巡ることで現在も活動する火山を有する地域特有の「火山と人と自然のつながり」を理解することができる。

ジオサイトの案内看板は環境省が建てたものや市で建てたものなど複数ある。しかし，ジオパーク用に整備したものはまだ少なく，デザイン等も統一されていない。また，錦江湾に関する看板は桜島に比べて少ない。特に，錦江湾周辺の成り立ちを理解する場所として優れている寺山展望台には早期の案内看板設置が望まれる。看板設置については，今後協議会を中心にデザインの一新および新設を進めていくとのこと（デザイン案作成中：資料別添）。ジオサイトに設定されている箇所は，概ね遊歩道や展望台等が整備されておりアクセスは良い。

大半のジオサイトは霧島錦江湾国立公園内にあり自然公園法で保護され，いくつかのサイトは史跡や天然記念物等に指定され保護されている。複数個所で地域住民や行政により保全がおこなわれている。桜島焼や椿油の製造，桜島大根や桜島みかんの栽培など，無形文化財についても地域住民や活動団体により存続の努力がなされている。今後推進協議会によるリスト作成と伝承支援な

ど、無形文化財の保全についても積極的に取り組んでいく必要がある。

## 2) 教育・研究活動

学校教育について、桜島についての学習は地域の小学校等で古くから取り組んでいる。ジオパーク教育については、NPO桜島ミュージアムを中心に取り組んでいるほか、市教育委員会が推進協議会の幹事会に参画している。今後、教育方針の中にジオパークを盛り込む予定である。

黒神中学校では、生徒がジオパーク活動として地域研究とその成果を用いたジオサイトの解説看板作製、ジオサイトの整備、ジオガイド(不定期)を実施している。石橋記念公園では小中学生を対象に「子どもガイド」制度を作り、勉強会等を定期的に関き石橋記念公園とその周辺について学習し、観光客に対して定期的にガイドを実施している。その他学校教育および社会教育ともにNPO桜島ミュージアムやNPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会、県立博物館、市立博物館等を中心に実施している。これら教育活動は鹿児島大学や京都大学等がバックアップしている。ジオガイドの養成についてはNPO桜島ミュージアムやNPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会を中心に実施している。

教育旅行についてはジオパークに関する各種プログラムを、NPO桜島ミュージアム等を中心に提供している。

調査・研究活動について、周辺大学等と連携して実施している。得られた成果や最新の情報等は火山活動の動向を中心に行政だけでなくガイド等にも還元されている。また、推進協議会として桜島のジオ資源の活用に関する調査・研究等についても取り組んでいる。

ジオパーク活動の核となっているNPO桜島ミュージアム理事長福島氏やNPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会代表理事東川氏はともに地質学を専攻しており、NPO桜島ミュージアムには地質学を専攻した別のスタッフも有している。これらの人物が中心となり、専門知識を活かした科学的に正確なジオパーク活動を展開している。

## 3) 管理組織・運営体制

鹿児島市および市内の各団体、市民団体等が連携して活動を行っている。鹿児島県や国の機関が推進協議会の委員に入っており、ジオパーク活動を協働で推進している。推進協議会会長(鹿児島市長)は、ジオパークについて十分理解し、火山と共生する地域としてのジオパーク活動の有効性を理解している。2013年国際火山学・地球内部化学協会(IAVCEI)学術総会を誘致開催するなど、知識と経験の発信と共有についても積極的である。

ジオパーク活動の主軸となっているのは地元市民団体であるNPO 桜島ミュージアムやNPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会で、鹿児島市と共同でジオパーク活動を進めている。学術的支援については京都大学や鹿児島大学の教員、等を中心とした学術アドバイザーを設置している。

拠点施設は桜島にNPO 桜島ミュージアムが管理運営するジオパークに特化したビジターセンターがあるほか、各地にある博物館や水族館などの既存施設をジオパークの拠点施設として位置づけ、連携・整備している。

ジオパークガイドについては、現在は各ガイド団体に属する既存ガイドと連携してガイド活動を行っている。ジオパークに関するガイド依頼の主な窓口はNPO 桜島ミュージアムである。NPO 桜島ミュージアムを中心に各ガイド団体や各種アクティビティ提供業者は十分連携が取れており、要望に応じたガイドやアクティビティの提供を域内のネットワークを活かして展開している。ジオパーク専用のウェブページは現在なく、その代わりになっているのがNPO 桜島ミュージアムのウェブページ「みんなの桜

島」である。今後専用のウェブページを整備するか、「みんなの桜島」をジオパークのページにするか検討中である。

現在、噴火口から半径 10 km圏内が桜島の影響を物理的かつ精神的に強く受けている地域ととらえジオパークのエリアにしている。ジオパークに関する教育活動等は鹿児島市民全員に実施しており、今後エリア外の住民からジオパークへ参画したいと要望があればエリアの修正を検討するとのことである。

#### 4) 地域の持続可能な発展とジオツーリズム

ビジターセンター等拠点施設の設置、博物館や水族館等既存施設との連携、民間観光業者や団体等との協働などジオパーク活動の基盤となる拠点や体制はかなり充実している。遊覧船やカヌー、街歩きなど多様なアクティビティがあり、それがジオパーク活動の中に活かされる体制ができていて、各種体験プログラムや教育旅行プログラム開発なども進められており、旅行者の受け入れ態勢が整っている。

ジオパークを推進する市民団体や企業による地場産品の製造販売などジオパークにつながる、大地の恵みを活かした商品開発も盛んに行われている。今後、既存地場産品へのジオパークブランド適応による付加価値化などの取り組みが期待される。

ガイドのレベルは場所や人によってまだ統一されていない。訪問者の要望等に応じて対応者を変えることで対応している。今後、プロのガイドとも連携しジオの知識をベースとした新しい枠組みのガイド認定制度(公認ガイドの養成)について検討するとのことである。

#### 5) 国際対応

現在整備中である。看板は日本語のものほか、場所によって日本語、中国語、韓国語対応されている。ガイドの解説も含め、継続して整備予定である。

#### 6) 防災・安全

身近にある災害として火山災害は住民に広く理解されている。ハザードマップ、避難港、避難シェルター等整備されており、災害への備えに尽力している。特に、避難港は各集落にそれぞれ整備されており、避難訓練も定期的実施されている。各研究機関とも連携しており、前兆現象の把握から避難までは迅速に対応可能である。ただし、ハザードマップのジオサイトでの掲出は視察時に見たものでは一か所だけであり、今後主要ジオサイトすべてで何らかの避難誘導に関わるサインが必要である。現在桜島 鹿児島市街を結ぶフェリーが避難時に大きな役割を果たすと考えており、鹿児島市と桜島を結ぶトンネルの整備計画には反対している(トンネル開通によりフェリーがなくなった場合、島に分散する各集落からそれぞれ一度に避難することができなくなる)。